

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第14週(3月31日～4月6日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	12週	13週	14週	14週	14週
インフルエンザ	2.00	0.75	1.25	0.99	1.20
新型コロナウイルス感染症	3.00	2.75	2.00	1.51	2.14
RSウイルス感染症	1.33	1.67	2.33	1.56	0.80
咽頭結膜熱	2.00	1.00	1.33	0.35	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.33	3.00	1.33	1.81	1.71
感染性胃腸炎	●20.33	8.00	5.33	5.65	6.41
水痘	0	0	0	0.26	0.27
手足口病	0	0	0	0.02	0.04
伝染性紅斑	0	0	0	0.21	0.63
突発性発疹	0	1.67	0	0.21	0.22
ヘルパンギーナ	0	0.33	0.33	0.05	0.01
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	0.03
急性出血性結膜炎				0	0.05
流行性角結膜炎				0.88	0.77
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.02
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.08	0.01
マイコプラズマ肺炎	4.00	1.00	2.00	0.25	0.22
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0.33	0.18

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 RSウイルス感染症の報告が多くなっています

第14週の報告数は67人で、定点当たりの報告数は1.56でした。地区別では、佐世保地区(4.80)、県北地区(2.33)が他の地区より多くなっています。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【トピックス】 マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる4月頃から増加します。

マダニ類が媒介するSFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、重症化して死亡することもあります。県内では2025年第14週までに2件の報告があがっています。近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

